

2026年度	科目名	教育心理学特論
	英語名	Advanced Seminar on Educational Psychology
	科目属性	専門科目A群
	担当教員	松浦 均
	単位数	2単位(SC 0.25単位)

【授業の目的・ねらい】

昨今の「教育心理学」がカバーする分野領域は多岐にわたる。同時に専門化も進み、多くの研究者が教育心理学分野での研究を進めている。研究者だけでなく現職教員による実践研究も増えてきた。社会人大学院生が修士課程において教育心理学を学修するにあたって、とくに学部教育で「教育心理学」を履修した人にとっては2回目という立場で、改めて「教育心理学」とはどういう学術的見地に立つ学問なのか、教育分野に関わる心理学とはどういう領域なのか、はたまた「教育」と「心理」の関係はどのようなものなのか、これまでの経験を踏まえて、自分なりの視点を持ち、自分の実践に生かしていけるようさらなる理解を深めていくことを目的とする。

【授業の概要】

授業の到達目標に記載されたテーマに沿って、各回の授業内容を学習していく。具体的には次の(1)～(5)を行っていく。

- (1) 授業計画に沿ってテキストの各章・節の内容を熟読し、理解する。
- (2) 関連する文献や参考資料を検索し、ダウンロードして読み、知識を広げる。
- (3) 課題をレポートにまとめ、教員からのフィードバックによって、理解を深める。
- (4) スクーリングでは、最近の心理学のトピックを知るとともに、研究法についても学習する。
- (5) 科目修得試験では、教科書、レポート、スクーリングでの学習を総合した知識を問う問題に答える。

【授業の到達目標】

「教育心理学特論」は、学部段階の「教育心理学」で学んだ基本的な知識に加えて、最新の知見をもとにさらに理解を深めること、また、教育現場における問題や課題解決に資するスキルを形成することを目指している。したがって教科書を始め、最近の学術論文も読んでほしい。学校場面における教育心理学的問題を解明し解決する方策を研究し、解決策を見つけられるようになることも目標の一つである。

授業の主なテーマと下位の目的は次のようなものである。

- (1)【発達と教育】 発達段階の意味を、単なる発達の理論としてではなく現実の教育に関係づけて考えられるようになる。

- (2)【学校不適応と教育相談】 学校不適応や障害が問題を引き起こすしくみを理解し、教育相談の方策に結びつけることができる。
- (3)【認知的学習の理論:学習の動機づけ】 複雑な知識の学習を認知心理学の視点から考えられるようになる。と同時に、学習への動機づけに関係するさまざまな概念を実証的な根拠に基づいて理解する。
- (4)【子どもの関係性の調整、社会性の発達】 いじめの問題も含めて、社会性の発達を理解し、学級の子もどしとの関係性を調整するための知識を獲得する。
- (5)【授業法とその原理】 多様な授業法とその原理を理解する。学校現場における新しい授業の展開について理解する。
- (6)【根拠に基づく教育のための研究法と教育評価法】 「根拠に基づく教育」を目指すために教育心理学の基本的研究方法や教育評価の方法、テストや検査に必要とされる信頼性・妥当性などの概念について、きちんとした知識を身につける。

教科書はあくまで整理された要点をもとに概説されたものであり、理解を深めるためには自分で参考文献や検索した文献も読んでみるという能動的な姿勢が必要である。

【授業計画】

- 第1回:**教科書の第1章「教育心理学の課題」(1~3; 1 -28ページ)を読んで、教育心理学の課題は何か、またどのようにして研究をしたらよいか、「研究的視点を持った実践家」を目指す大学院生として理解する。
- 第2回:**第2章「発達過程の理解」(1~2; 29-45ページ)を読んで、「発達」という概念、なぜ「発達段階」が存在するのかという根本的な問題、さまざまな発達段階の考え方のちがい等について理解する。
- 第3回:**第2章(3~4; 46 -54ページ)を読んで、「ピアジェの発生的認識論」と「新ピアジェ派」の考え方について理解する。
- 第4回:**第3章「適応と障害の理解」(1; 55-62ページ)を読んで、学校不適応や教育相談について理解する。
- 第5回:**第3章(2~3; 62 -74ページ)および「コラム:アセスメント」を読んで、特別支援教育について理解し、「アセスメント」の意味を理解する。
- 第6回:**第4章「学習の基礎の理解」(1; 73-82ページ)を読んで、比較的単純な学習の形態である2種類の「条件づけ」について再度学び、条件づけの応用までを理解する。
- 第7回:**第4章(2; 83-91ページ)を読んで、学習の基礎としての「記憶」について認知心理学においてどのような展開があったかを知る。
- 第8回:**第5章「認知心理学の観点から見た学習」(1~4; 93 -118ページ)を読んで、条件づけのような単純なかたちの学習とは異なる、複雑な知識の学習について認知心理学はどのような考え方を発展させてきたかを理解する。
- 第9回:**第6章「学級集団の理解」(1~4; 119-129ページ)を読んで、学級集団の機能や意味を理解する。
- 第10回:**第6章(5; 129-134ページ)を読んで、学級集団の病理現象としての「いじめ」について理解する。

第11回:第7章「授業の方法と教師の役割」(1~2;135-148ページ)を読んで、授業理論と授業形態の概要を理解する。

第12回:第7章(3;148-152ページ)を読んで、教育における教師の本質的な役割を理解する。

第13回:教科書の第8章「教室でのICT活用」(1~6;153-175ページ)を読んで、ICT(Information and Communication Technology)の活用について考える。

第14回:第9章「教育評価の方法」(1~3;177-200ページ)を読んで、教育評価の機能、方法、必要な条件について広く理解する。

第15回:第10章「教育データと分析結果の見方」(1~4;201-223ページ)を読んで、「根拠に基づく教育」を行おうとするときの基礎力を身につける。

○科目修得試験

【評価方法】

スクーリング評価(30%)、レポート評価(30%)、科目修得試験(40%)を総合しての評価となる。

【教科書】

1. 子安増生・田中俊也・南風原朝和・伊東裕司著『ベーシック現代心理学6 教育心理学(第3版)』有斐閣
2015 ISBN 978-4-641-07245-9

【参考図書】

* 以下のものは、参考書・参考資料の例であって、必ず参照しなければならないわけではない。この他にも、自分で必要な文献は検索して学修すること。スクーリングの際にも参考図書を紹介する。

1. 『教育心理学研究』『発達心理学研究』『社会心理学研究』『心理臨床学研究』などの学術誌に掲載されている論文。知見としては新しい(最近)の論文を見つけることが望ましいが、その論文の引用文献リストに並んでいる論文もチェックしておくことが研究を進めていくコツの一つである。